

登録コード	SD505300	開講年度	2026						
授業題目	構造地質学					担当教員	常盤 哲也		
英文授業名	Structural Geology					副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・1時限		対象学年	3年	
講義室	理学部第13講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目		備考	自由／必修
信大コンピテンシー	非該当								
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】		
	2 6 Sカリ, 2 5 Sカリ, 2 4 Sカリ, 2 3 Sカリ								
	【2023年度以降カリキュラム対象】理学の各分野における専門知識					⇔	地質に残されている地質構造の種類や成因を把握する能力を身に付けることができる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生、防災減災								
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース								
(4)授業の概要	いろいろな規模の地質構造を記載学的に認識・分類し、その形成要因について理解する。次に、それらの構造地質学的現象を生じることが可能となった物理条件について、実際の地質構造を観察することで考察する。さらに、構造地質学の応用として、災害や国土開発などの社会的な要請に役立っている事例について学ぶ。								
(5)授業のキーワード	科学リテラシー 自然科学の基礎知識 地質科学の基礎知識								
(6)授業計画	1.構造地質学とは 2.地質構造の種類 3.地質構造の方位 4.歪と応力 5.地殻物質の変形 6.変形メカニズムと変形相 7.断層と節理Ⅰ 8.断層と節理Ⅱ 9.褶曲Ⅰ 10.褶曲Ⅱ 11.岩石組成と貫入 12.地質構造とテクトニクス 13.構造地質学の応用（活断層） 14.構造地質学の応用（地滑り） 15.構造地質学の応用（国土開発） 16.期末試験・授業アンケート								
(7)成績評価の方法	期末試験により評価を行う。								
(8)成績評価の基準	基本的な構造地質学の分類が理解できていればC（60～69点）、地質構造の地質学的成因が理解できていればB（70～79点）、地質構造を形成するための物理条件や構造地質学の社会への貢献が理解できていればA（80～89点）、さらに上記の全ての項目に関して特に正確に理解できている場合はS（90～100点）とする。								
(9)事前事後学習の内容	特になし								
(10)履修上の注意	専門科目なので、地球学コース以外の受講者は、地質学に関する基礎的な知識の事前習得が必要である。								
(11)質問,相談への対応	オフィスアワーは前期火曜日の講義終了後。その他の授業時間以外にも、対応可能な場合はいつでも研究室（理学部C棟410）において対応する。								
【教科書】	特になし。適宜資料を配布する。								
【参考書】	「構造地質学」天野一男・狩野謙一 共立出版 「構造地質学」狩野 謙一・村田明広 朝倉書店								